



未来の先生展
2017

Theory of Knowledge

～「知る」ことと「知識」～

模擬授業形式

開催日時 2017年 8月 26日(土) 14:20-15:50

場 所 武蔵野大学有明キャンパス 1号館3F 305号室

講演者 福島浩介 (英数学館高等学校 国語科・DPコーディネーター)

内容

2012年～14年にかけて行われた文部科学省の「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」を委嘱された5校のうち4校までがTheory of Knowledge (=TOK)に関する研究を行っていたことから分かるように、国際バカロレア(日本で一般的には高校2年3年次に該当するディプロマプログラムを指すことが多い)を導入しないまでも、ディプロマプログラム(=DP)のコアの一つであるTOKは一条校からも注目されているようです。本日は、実際に日本語DPで行っているTOKの授業と、DPに入る前の高校1年次で行っているTOK Prepで行っている授業から題材を取り上げ、TOKとはいったいどんなもので、どんな授業が実際に行われているのかということの一端を垣間見ていただこうと思います。

ここに注目!

TOKの授業を受けているとき、生徒は、次のような視点を重視します。①知識とはどのようなものか ②知識を増やす方法とは ③知識の限界とは ④知識は誰のものなのか ⑤知識の価値とは ⑥知識を“持つ”又は“持たない”とはどのような意味なのか。

今回の模擬授業では、①②⑤⑥といった視点について、参加者の皆さんに積極的に取り組んでいただき、「ただ一つの正解」はないにしても、協働して「最適解の一つ」に辿り着くという過程を実際に行って頂くことによって、TOKとはどんなものなのか、どういう風に学習者は取り組むのか、どのように授業を構成するのかといったことを体感して頂ければ幸いです。この「授業」を生かすも殺すも参加者の皆さん次第であります。よろしくお願いいたします。

講演者プロフィール



講演者プロフィール

英数学館高等学校 国語科・DPコーディネーター(日本語)

1991年の開校当時から長らく関西学院千里国際で国語科の教諭として勤務しました。キャンパスを共有する大阪インターナショナルスクールが当初からIB校であったためIBには親しんでおり、教務センター長として2012～14年にIBに関する文科省委嘱研究に取り組みました。今年度、英数学館高校が英語と日本語のDPを開始するにあたってTOKの担当として赴任しました。来年度以降、日本語A「言語と文学」も担当の予定です。

講演者から参加者へのメッセージ

TOKは学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味して、理性的な考え方と客観的精神を養うものです。さらに多様性を認識し国際理解を深めて、偏見や偏狭な考え方を正し、論理的思考力また、様々な場面に直面した際に状況理解の指針となる考え方として、批判的思考の力(Critical Thinking、物事を多様な観点から考察する力)を重視しています。これらは21世紀を生き抜く必要のある今の児童生徒学生諸君が身につけるべき能力であり、全ての21世紀を生きる人々が少なからず必要とする考え方であると思います。IB校に限らず、広くこの考えが認識され広まることを願います、この国の未来のために、自分の老後のために(笑)

